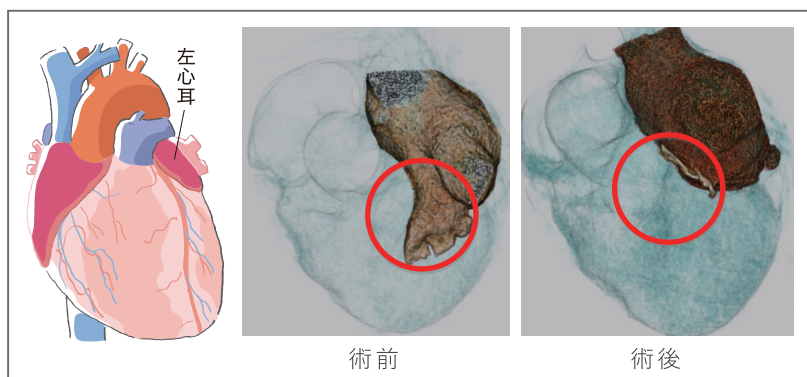


最新の心房細動治療法

「内視鏡下左心耳切除術」

心房細動は高齢になるほど多くなり、80歳以上では約1割の方に見られる不整脈です。心房内に血栓ができる可能性があり脳梗塞などの致死的血栓塞栓症の原因として重要です。心原性脳梗塞の一般的予防は抗凝固剤(代表的なお薬はワーファリン)の服用です。しかし、抗凝固剤治療の継続による身体的・心理的負担は患者さんのQOL(生活の質)を落とす報告もあります。のみ忘れることや、副作用として出血を伴う病気が発症する可能性がありますし、外科手術や内視鏡検査などを行う際には一時的に休薬をしなければいけません。9割以上の血栓が心臓の左心耳で形成されるといわれており、左心耳を切除することが心原性脳梗塞予防に有効です。



心臓弁膜症や狭心症など他の心臓疾患を合併していない心房細動(孤立性心房細動)の患者さんが適応です。手術前に他の合併症がないか、しっかり調べてから手術を行ないます。心房細動自体を治療する、肺静脈隔離術と同時に行うこともあります。



心房細動以外に、全身あるいは心臓内の血栓形成性を高める病態がある場合は、左心耳切除術のみでは不十分な治療になります。外来診察にて手術適応の評価をおこないます。



責任者
心臓血管外科部長
迫 秀則 医師

